氷川町、10年後のあるべき姿は!?

江嵜　悟　議員

氷川町10年後のあるべき姿について（第1弾）

議員　2期目に入り、2町合併の際に合併協定書や建設計画などで約束されたことが守られているか検証してきました。

残念ながら建設計画で約束された中心市街地再整備は断念され、商店街は存在しないとの声もあります。

建設計画では調査と書いてあるインターチェンジは、即座に建設され、当初の単費は1億円の予算が、私の試算では5億円にまで膨れ上がってしまいました。

竜北公園は、1億数千万円でスーパースライダーなどを整備されたが、費用対効果が出ていないことは町民の皆様もご存じだと思います。

インターチェンジも竜北公園も建設に反対しましたが、現在の状況になってしまいました。

合併は、八代市郡一体の合併が進められていたのを、突然2町が脱退。

当時の潮谷知事は「非常に残念だ。八代は一つを合言葉に来たが、県としても考える。」中島市長も「寝耳に水だ。2町で離脱したなら頑張ってもらいましょう。」とのコメントを出された。

いま、ゴミ問題が出てきて、暗礁に乗り上げています。

氷川町は、八代市にゴミをお願いすると言い出しました。

八代市の職員や議員さんは、2町合併で離脱しておきながら、いまさらゴミは八代市にお願いするはないでしょうと、言われています。

そのような中でこれからの10年どの様に進んでいくのか、このまま氷川町が存続していけるか、存続するためにどうするかは、藤本町長の手腕を持って残任期間2年で決まると考えます。

藤本町長が想定される、氷川町の10年後のあるべき姿を一般質問で取り上げ、このまま氷川町でいいのか、八代市との合併などを想定しなければいけないかをこの2年間で見極めて、10年後の氷川町のあるべく姿をただしていきたいと考えています。

町長　10年前に小さな合併を選択し氷川町が誕生しました。大きな合併の話が出て私は愕然としました。

私たちのふるさとは氷川町です。このふるさとをしっかり守って頑張ってまいりたい。

ごみ処理は、6ヶ町村で一部事務組合を作り運営してきました。このことをしっかりと継続し、真摯に向き合って議論しています。

産業の10年後について

①農業の方向性について

議員　TPPが署名され農業の保全育成への対策及び営農集落の方向性は。

町長　農業振興の方向性は、TPPの大きなうねりの中、新しい視点を持って臨んでいかなければならないと思ってます。

また、再度、基盤整備事業を行います。基盤がなければ、いい作物はできませんので。

②商工業政策の方向性は

議員　商店街疲弊解消への取り組みや活力向上及び起業家支援対策は。

町長　中心市街地の整備をされたが成果がなく、商店が無くなってしまいましたよ。残念でございます。何のための中心市街地整備だったのか。反省と検証をすべきです。商業・工業を頑張っておられる方をしっかり応援します。

議員　私は、農産物関連の企業誘致は、町長に是非、頑張ってもらうためにも、専属の企業誘致担当職員を配置してもらいたい。

町長　農業関連企業の誘致は、以前からその考えはありました。JAさんとタイアップしながら、企業誘致をしていきたい。

議員　いままで、私は色色な提案をしてきましたが、今がチャンスです。

国が、地方創生を叫んでいます。氷川町がどの様な提案をできるか。総合戦略では、10年後の氷川町人口は2，500人減って1万人になると予測しています。どんな施策で、人口の減り方を押さえられるか、努力して欲しいと思います。